

1 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価 (最高4)	分析及び改善策 (○…成果、●…課題)
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	<p>1 豊かな心の育成</p> <p>①いじめ、不登校への適切な対応（必須）</p> <p>②道徳教育の充実を図るとともに、友愛の精神を尊重し、思いやりの心を育む</p> <p>③学校行事や部活動を通して、礼節と協調性を養い、たくましい心を育てる</p>	<p>3.5 【妥当】</p> <p>3.8 【妥当】</p> <p>3.7 【妥当】</p>	<p>○学年所属職員を中心に情報を共有し、チームで役割分担を行い、対応している。また、いじめ対策特別委員会を定例化し、生徒の自治的な活動の日常化を図った。</p> <p>●不登校、不登校傾向の生徒は減少傾向にあるが、これまで以上にスクール・ソーシャル・ワーカー等の外部機関との連携を深める。</p> <p>○道徳の教科化に伴い、評価方法についての研修を深めるとともに、学級担任だけでなく副担任も輪番で道徳科の授業指導を行った。</p> <p>○制限を受けつつも、3年修学旅行、二中祭、体育大会をはじめとした学校行事や部活動で生徒が主体的に活動に取り組んだ。</p> <p>○あいさつ等教員が意識して行った指導は、徐々に生徒達に浸透し、意識した行動ができてきた。</p>
	<p>2 基礎学力の充実</p> <p>①「めあて、まとめ（振り返り）」の完全実施とわかる授業の実践</p> <p>②家庭学習の習慣化</p>	<p>3.8 【妥当】</p> <p>3.5 【妥当】</p>	<p>○「めあて」については、どの授業でも確実に提示されている。教科部会を中心とした授業改善が浸透してきており、発表後も毎時間の中で「めあて」の提示と「深い学び」であったかを「まとめ（振り返り）」を意識した授業を行っている。</p> <p>●生徒から「めあて」を引き出すなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善にさらに力を入れる必要がある。</p> <p>○ながよ検定に向けては、教科の枠を超えて学年職員が協力して個別の補充学習に取り組んだ。また1年生や学力に伸び悩む生徒の家庭学習習慣化のきっかけとしても効果があった。90%を超える合格率を達成できた。</p>
	<p>3 健康安全教育の推進</p> <p>①環境美化と整理整頓の指導徹底</p> <p>②アレルギーへの共通理解と対応の徹底</p> <p>③防災や危機意識の涵養と自己防衛意識の指導（メディア安全を含む）</p>	<p>3.4 【妥当】</p> <p>3.6 【妥当】</p> <p>3.5 【妥当】</p>	<p>●朝の玄関清掃や「心トレ（清掃時間）」等、生徒会を中心に活動を行ったが、コロナ禍の中、活動が継続して行えない時もあった。</p> <p>○給食担当、学級担任、管理職などの複数の目で給食における事故の未然防止に努めるとともに、家庭との連携でアレルギー対応の確実性を維持する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染対策やメディア安全教室を行うなど、生徒自身の危機管理意識を高める取組を行った。特に、感染症に関する個人情報の掲載や拡散がないよう注意喚起を繰り返し行った。</p>
	<p>4 特別支援教育の充実</p> <p>①一人ひとりのニーズに応じた支援（必須）</p> <p>②生徒の実態把握と対応策の策定及び共通理解と共通実践の充実</p>	<p>3.5 【妥当】</p> <p>3.6 【妥当】</p>	<p>○定期的に生徒指導委員会や特別支援教育部会を開き、配慮を要する生徒に関する情報を共有した。</p> <p>○特別支援教育支援員や相談員の記録を全教員で回覧し、生徒の実態把握と支援の仕方について共通理解をもった。</p> <p>●支援の必要な生徒への支援計画、指導計画等をもとに全教員で生徒理解を行う研修の時間のための工夫が必要であった。</p>

<p>5 国際化への対応</p> <p>①人権意識の高揚と豊かな人間関係づくり</p> <p>②日本の文化や地域の理解（各教科）</p> <p>③グローバルな視野を持たせる取組（総合的な学習の時間）</p>	<p>3.2 【妥当】</p> <p>3.0 【妥当】</p> <p>3.4 【妥当】</p>	<p>○学期始めにLGBTに関しての学習や感染症に対応に関して、個人情報掲載や拡散がないよう注意喚起を繰り返し行った。</p> <p>●コロナ禍の中、1年 NICE（ALT との英語交流）、3年シボル校留学生と交流等が中止となり、様々な国の人々との交流行う機会ができなかった。</p> <p>●新たな地域人材や地域教材の活用場面を検討する。今後は、ICT 機器の活用などをおしてグローバルな見方・考え方を育む。</p>
<p>6 教育環境の整備</p> <p>①安全点検の実施と学習環境整備の徹底（PTA、学校支援ボランティアの活動含む）</p> <p>②通信やHPなど学習成果の発信と共有</p> <p>③労働環境の適正化と働き甲斐のある職場づくり</p>	<p>3.4 【妥当】</p> <p>3.5 【妥当】</p> <p>3.4 【妥当】</p>	<p>●PTA 本部、もちの木会の協力のもと、運動場草刈り掃作業及び剪定作業を実施したが、生徒、保護者を交えての除草作業等を行えなかった。今年度もコロナ禍の下、PTA や学校支援ボランティア「もちの木会」の活動も制限された。</p> <p>○従来の電話連絡網を廃し、臨時休業中の課題提示や緊急連絡の手段として、学校HPと電子メールシステムの運用を定着させ十分に活用ができています。</p> <p>●学校日より、学年通信は継続的に発行できている。コロナ禍で学校の様子が家庭に伝わりにくいことため、学級通信の発行やHPの更新を増やしていく必要がある。</p> <p>○月80時間以上の超過勤務の職員はほぼいなくなっており、部活動ガイドラインに基づく部活動週休2日が定着している。部活動の地域移行をR6年に向け部活動改革を早急に進めていく。</p>
<p>7 教職員の資質向上</p> <p>①指導力の向上（必須）</p> <p>②教科研究と校内研修の充実</p>	<p>3.7 【妥当】</p> <p>3.6 【妥当】</p>	<p>○夏季休業中に全教員が模擬授業を実施し、教科の枠を超えた相互研修を行った。また、ながよ検定に向けての補充学習など、同僚性・協働性による教科の枠を超えた取組が行われた。</p> <p>○校内研究の活性化により、教科部会を中心とした授業改善が浸透した。発表後も毎時間の中で「めあて」の提示と「深い学び」であったかを「まとめ（振り返り）」を意識した授業を行っている。</p>

## 2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

### （1）成果

- ①本発表の年度であることを含め校内研究の活性化により、教科部会を中心とした授業改善が浸透した。発表後も単元計画をもとに毎時間の中で「めあて」の提示と「まとめ（振り返り）」を意識した授業を行っている。また、ながよ検定の実施前には、休み時間や放課後の時間を惜しむことなく学年所属職員が協力して個別に補充学習を実施した。このことは、ながよ検定合格率90%以上を達成し、基礎・基本の定着、家庭学習の習慣化につながった
- ②道徳授業の輪番制や評価方法についての研修を深める、夏期休業中の模擬授業、学習室の割当など、学年所属職員集団を中心とした横のつながりで同僚性・協働性が発揮される場面が多かった。
- ③今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの教育活動の見直しを行った。また実施した教育活動の中でも短縮や延期等制限がある中、修学旅行、二中祭や体育大会などの学校行事で学習成果を主体的に披露した。教員も、昨年度以上「対話的な学び」を実現するための授業改善に積極的に取り組んだ。
- ④感染拡大防止についての教職員の生徒への指導だけでなく、生徒会の活動や放送を通し、繰り返し注意喚起を行った。職員の危機管理能力の向上だけでなく、生徒の安全に対する意識の高揚やいじめ・差別を許さない姿勢を育むことにつながった。
- ⑤働き方改革を一層推進する。部活動ガイドラインが定着するとともに、放課後の時間に余裕を持った日課に変更等工夫を行った。放課後の時間を分掌や学年会議、また生徒の補習学習あてることで、月80時間以上の超過勤務の職員はほぼいなくなった。今後は、月45時間超の縮減を目標に、尚一層の業務の効率化、勤務時間の自己管理が求められる。

### （2）課題等

- ①昨年度よりも不登校、不登校傾向の生徒は少なくなったが、依然として多い状況にある。家庭との連携はもちろんのこと、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー、こども政策課等の外部機関と連携に力を入れる必要がある。また、小学校からの支援の必要な生徒の情報の引継ぎ、支援方法等について職員全体の共通理解と共通実践を行うため十分な研修時間を確保する。
- ②コロナ禍の下、授業や学校行事等、様々な制限がある中、各教科カリキュラムを変更するなど柔軟に対応し、授業を行っている。また、登校できない生徒へタブレットの使用し、授業を配信するなど、学びを止めない学習の工夫を行っている。タブレットの使用等についてまだまだ研修を積まないといけないことが多い。また、地域の核となるべき学校として、通信やHPを今まで以上に活用して情報を発信していかなければならない。
- ③部活動ガイドラインが定着し、月80時間以上の超過勤務の職員はほぼいなくなった。今後は、月45時間超の縮減を目標に、尚一層の業務の効率化、勤務時間の自己管理が求められる。そのために部活動の地域移行がスムーズに行えるよう、部活動改革に教職員全体で取り組んでいく。
- ④日課の変更により「朝学習・朝読書」の時間設定が短くなった。生徒アンケートはこの項目の数値的が落ちている。朝学習は、家庭学習、授業2分前学習と関連付け指導していく。また、読書についてはコロナ禍により昨年度図書室来室貸出冊数の変化はないものの学校生活での読書時間が少なくなっており、教科や家庭での読書習慣の啓発を行っている。

### 3 学校関係者評価

- 学校による自己評価（数値、分析及び改善策）を妥当と認める。（学校評議員3名全員）
- こんなにもコロナ生活が長引くとは思っていませんでしたが、その中でも学校行事など工夫をしながらも取り組んでいただき感謝しています。子どもたちも諦めることなく参加できたことがうれしく思っています。保護者コメントに▲の意見が今までより多くなっているので気になるところです。（コロナ下での不満や不安があると思いますが）中学生から高校の6年間って本当に短く貴重な時間と思っています。子どもたちの心の健康などこれから注視していく必要があるのかなと心配と一日も早く自由に過ごせる日が来ることを願っています。
- 二中だけといわず全世界での今の状況でいろいろと難しいことがたくさんあると思います。あいさつのことも言われていますが、対面、大きな声など今はタブーとされていることでこういった結果になっているのかなと思います。現状はこうなっているけれど、本来なら・・・という事も時折口に出して伝えることも必要なのかなと思います。いろいろ大変だと思いますが、今後の世の中で出ていく子ども達ですのであいさつははっきりできるようになってほしいです。
- 長与第二中学校教育活動への取組はコロナウイルス感染拡大で制限された中、各アンケート、学校評価の結果からみて充実したものと認識しております。交流授業開催は難しいものの、校内行事等に重きを置いて開催していただきありがとうございます。まだまだコロナ感染の予断を許されない現状ではありますがこれからも教育活動、心の育成に御尽力お願いいたします。

### 4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- 保護者の▲の意見については学年PTAや授業参観の中止、学校行事への参加の制限等、学校の様子がうまく伝わっていないことが大きな要因である。保護者や地域の方々に発信することについては、昨年の反省を生かしつつ、「学校だより」、「学年通信」の定期的な発行、自治会へ学期中に発行した「学校だより」を学期末に配付した。学校での生徒の様子を家庭に伝えるため、学級通信を月1回以上発行することを継続、推進していきたい。
- あいさつについては、3学期の重点課題として挙げており、まずは「あいさつ、身だしなみ、言葉遣いに気配りを！」をキーワードに教員が生徒の手本となるよう教員の率先して行い、生徒会活動を通して「心こもったあいさつ」ができるよう全体的な活動に広げていくことを目指し計画、実行している。